



クライアントの熱い思いを、
ともに世の中へ届けていきたい。

(ディレクター 田村望)

自らを「ただのおぢさん」と称するディレクターがいる。クリエイティブ開発チーム所属、田村望。46歳という年齢からすればその通りだが、このおぢさん、もちろんただ者ではない。

「小さい頃から、ノッポさんになりたかった」という彼。学生時代はプロダクトデザインを学び、将来は海外で家具デザインなどの仕事をしたいと考えていた。

たき工房への入社は15年前。以来、アートディレクターとして、代理店クリエイティブとの作業はもちろん、クライアントから直接依頼される作業も数多い。

「化粧品、住宅、不動産、金融など、業種を問わず幅広いクライアントを担当します。広告をはじめ、SPツール、インナーツールの制作まで、内容も多岐にわたる。オリエンを受けてのコンセプトワークから、人の目に触れる表現まで、クライアントと膝を交えて一緒に作り上げていく作業は、とてもやりがいがあります」

「クライアントは自分の話を一生懸命聞いてくれるので、それに一生懸命応えたいと思う」そう話す彼に、クライアントが寄せる信頼は厚い。

「なぜ、お客さんが振り向いてくれないのか。販売・営業部隊のセールスはどうしたらいいのか。そういうところからじっくりと話し合います。相手はその道のプロ。自分たちはコミュニケーションのプロ。大それたことはできないけど、クライアントの悩みを聞き、キャッチボールした結果うまくいったときはとても嬉しい。酒がうまい(笑)」社内ではCDとしての役割も担う彼。スタッフとはどのように接しているのだろうか。

「この会社はいろんな人がいて面白いよね。若いスタッフには好きなようにやらせてあげたい。そのために自分がいるから。新しいことを教えてもらうことが楽しいので、難しいことは若い人に教えてもらって、俺が教えるべきことは教える。そんな、持ちつ持たれつの関係がいいと思ってます」

最後に、この仕事の醍醐味について聞いてみた。

「自分たちが世に送り出したものを見て、商品を買ってくれる。憧れてくれる。幸せに感じてくれる。そんな時間を届けたいと思う。お客さんの、そういう心理を動かしたい」そんな彼の言葉には、「ただのおぢさん」の中にひそむ、ただならぬ情熱を感じずにはいられない。

人の思いをカタチにし、伝える。
たき工房は創立50周年。



TAKI CORPORATION

50

TAKI GROUP 50th